

プレスリリース

日本トランスオーシャン航空、CFM56-7B エンジンを確定発注

- 発注額はリストプライスで2億6,000万ドル、2016年に納入開始予定 -

2014年5月30日(那覇/米オハイオ州発) CFM インターナショナルは、本日、那覇で開催された式典において、日本トランスオーシャン航空(以下、JTA)より、CFM56-7B エンジンを確定受注したことを発表しました。同エンジンは JTA が新規に導入するボーイング製次世代 737-800 型機 12 機に搭載予定ですが、JTA は将来的に調達機材を LEAP-1B エンジンを搭載した 737 MAX に変更することも可能です。

JAL グループに属し、沖縄(那覇市)に拠点を構える JTA は、長年にわたり、CFM エンジン搭載機を運航しており、現在、CFM56-3 エンジン搭載の 737-400 型機により、沖縄と日本の主要都市、および沖縄の離島を結ぶ航空輸送サービスを提供しています。

CFM インターナショナルのゼネラル・マネージャー(アジア太平洋地域担当)のクリス・ドウルワーは、「本日のイベントに参加でき大変光栄です。古くからお付き合いのあるお客さまの新型機導入を心よりお祝いするとともに、JTA・ボーイング・CFM の 3 社がこれまで強固な関係構築を続けてきたことを大変嬉しく思います。」と述べました。さらに、「これまで、こうした緊密な協力関係により、数多くのことを成し遂げてまいりました。そして、本日は新たな協業に向けたスタートの日でもあります。今後も、これまで以上に、皆さまからの信頼と期待にお応えするために、業界をリードする最先端の技術、および世界屈指のカスタマーサポートの提供に向けて、全力を傾けてまいります」と述べました。



JTA 新機種購入契約締結記者会見にて

【3社の代表】

左 :ボーイング民間航空機部門 ジョン・ウォジック

中央:日本トランスオーシャン航空(株) 佐藤学

右 :CFM インターナショナル クリス・ドウルワー

JTA が新たに購入するすべての 737-800 型機には、2011 年半ばに導入された新仕様の CFM56-7BE エンジンが搭載される予定です。CFM エンジンは、先進のコンピューター・プログラムと 3D (3 次元) 設計技術を活用して高低圧のタービブレードを改良することで、エンジン性能を高めています。また、エンジンの耐久性を高め、部品点数を減らすことで、メンテナンスコストの削減を実現し、さらに機体とエンジンの改良を組み合わせることで、2%の燃費改善と最大 4%のメンテナンスコスト削減をもたらします。

CFM エンジンは 1981 年以降のボーイング 737 型機全機種に独占的に供給されており、LEAP-1B は 2017 年に製造開始予定のボーイング 737 MAX に独占供給されます。LEAP エンジンには、最先端の空気力学・環境・素材技術開発プログラムが随所に採用されており、現在最高クラスの CFM エンジンと比べても、燃費と CO₂ 排出の 15%改善、ならびに騒音と排ガスの飛躍的な削減を達成しています。これらのテクノロジーを駆使することで、LEAP エンジンでは、CFM が誇る高い信頼性と低いメンテナンスコストの実現が可能となります。

CFM インターナショナルについて

CFM インターナショナルは、GE とスネクマ(サフラン・グループ)の折半出資合弁会社です。世界有数の民間航空機向けサプライヤーとして、530 におよぶ世界のオペレーターに 26,000 基を超える CFM56 エンジンを納入した実績を誇ります。